

Title	2014年センター報告・日誌
Author(s)	
Citation	一橋大学社会科学古典資料センター年報, 35: 141-144
Issue Date	2015-03
Type	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://doi.org/10.15057/27329
Right	

2014年センター報告・日誌

一般貴重書保存事業

平成25年度より一橋大学後援会より奨学寄付金の助成を受け、一般貴重書の保存修復作業を行っている。ここで一般貴重書と呼んでいるのは、1850年以前に刊行された洋図書で、一橋大学で購入した貴重書と、佐野、村瀬、上田、Lexis、青山、良知、三浦、Möller、外池、中山、竹下、大塚、村瀬、小場瀬、藤井、石原、山内、鳴海等の文庫に所属する図書のうちから原則として1850年以前に刊行された図書を抽出したものの総称である。建学の最初期から収集されてきた資料を含むコレクションであり、内容は本学の長年にわたる学問研究の歴史的蓄積を反映して社会科学、人文科学の極めて広い範囲に及ぶ。「一般貴重書」は経年による素材や製本構造の劣化、関東大震災や戦時中の疎開など数度の移動によるダメージ、過去大量に日本で行われた複製本材料の酸性劣化など、長期保存上の多くの問題を抱えている。また、収集の経緯が様々であることを反映して、劣化状態が一様でないことが特徴である。そのため、資料個々の状態を悉皆的な調査によって個別に把握し、適切な保存措置をとることが、今後の長期的保存を図る上で喫緊の課題である。こうした保存修復作業は、製本家・書籍修復家からの指導を受けながら、センター内に設置されている貴重書保存修復工房のスタッフにより行われている。本事業は5ヵ年計画として実施される予定である。

科学研究費補助金事業（1）

平成24年度より科学研究費助成金の助成を受け（「一橋大学社会科学古典資料センター所蔵の旅行記についての研究」、挑戦的萌芽研究、平成24年度～26年度、課題番号：24650125、研究代表者：江夏由樹）、社会科学古典資料センターが所蔵するメンガー文庫、フランクリン文庫などに含まれる17～19世紀の西欧人がロシア・東アジア各地を旅行した際の記録である書物について、内容分析を行っている。

科学研究費補助金事業（2）

平成24年度より科学研究費助成金の助成を受け（「ロブリエール家文書を取り巻く世界—フランス貴族所領経営と領主文書の謎を解く」、挑戦的萌芽研究、平成24年度～26年度、課題番号：24652150、研究代表者：大月康弘）、社会科学古典資料センターが所蔵する『ロブリエール家文書』の分析を行っている。『文書』は、中世後期からアンシアン＝レジーム末期までの所領管理の記録群として注目に値するものであり、これにより14世紀後半～18世紀末のフランス所領経営の実態解明が期待される。

科学研究費補助金事業（3）

平成24年度・平成25年度に引き続き、山崎耕一・センター特任教授が日本学術振興会の平成26年度「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」事業の助成を得て、図書資料の保存と修復に関する啓蒙活動の一環として、中・高校生向けセミナー「本を残す 本を伝える - 書籍の保存と修復」を9月15日（月祝）に開催した。当日は、中学生6人、高校生4人、付添者7人のあわせて17人が、朝10時から、社会科学古典資料センター書庫および隣接する附属図書館を見学し、その後、昼食をはさんで、センター貴重書保存修復工房スタッフの指導による保存箱の作成や製本実習、ページ修理の実習など、午後4時の修了式まで

さまざまな演習に参加した。参加者からは「実習が面白かった」「将来チャンスがあるなら研究をしてみたい」など多くの感想が聞かれた。会場には、ひらめき☆ときめきサイエンス事業推進委員会副委員長でノーベル化学賞受賞者の白川英樹筑波大学名誉教授が視察に訪れ、見学会では熱心に質問し、実習中の受講生にも活発に話しかけていた。

ワークショップの開催

8月26日(火)にUniversity College LondonのPhilip Schofield教授、Tim Causer博士、Kris Grint博士をお招きして、横浜国立大学の有江大介教授の司会により、「貴重資料の電子化アーカイブとその公開・利用・外部連携：Digital Humanitiesの新局面」と題するワークショップを開催した。報告題目と報告者は以下の通り。「一橋大学機関リポジトリ概要説明 貴重資料の電子データのアーカイブと外部システムとの連携機能について」(一橋大学学術・図書部学術情報課電子情報係員・藤村ゆか)、「一橋大学社会科学古典資料センターによる電子化公開」(一橋大学社会科学古典資料センター専門助手・福島知己)、「tranScriptorium and Transcribe Bentham : How to Succeed with Scholarly Crowdsourcing」(University College London, Philip Schofield教授、Tim Causer博士、Kris Grint博士)。当日はメンガー文庫に収録されているベンサム文献、ハチスン、エルヴェシウスの初版本、スミス『国富論』初版等を展示した。参加者は27人だった。

ロブリエール文書サイトの開設

上記の科学研究費助成金を利用して作成したセンター所蔵『ロブリエール文書』全27冊のデジタル画像のインターネット公開を12月3日(水)から開始した。Digital Library of the Archives of the Marquise of Laubrièresのサイトアドレスは以下の通り。

<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/laubrieres/index.html>

第15回西洋古典資料保存講習会

下記の内容で、7月2日(水)から7月4日(金)まで3日間開催し、全国の国公私立大学図書館等から10名が参加して、実習を中心に行った。

1. 保存計画のための材料と環境 増田勝彦(昭和女子大学光葉博物館顧問)
2. 劣化調査と保存計画 増田勝彦
3. 国立国会図書館における東日本大震災被災資料への対応
村上直子(国立国会図書館収集書誌部資料保存課副主査)
4. 資料保存と製本構造、調査票の記入・活用、本のクリーニング、革装本の手入れ、書見台の製作、保存製本、保護ジャケットの製作、修理用和紙の染色、ページ修理の基礎、見返し・表紙角の修理、封筒フォルダーの製作、保存箱の製作
岡本幸治(製本家・書籍修復家)

第34回西洋社会科学古典資料講習会

下記の内容で、11月12日(水)から11月14日(金)まで3日間開催し、全国の国公私立大学図書館・専門図書館等から31名が参加した。

古典研究

- (1) 機械の問題と経済学 — イギリス古典派経済学とその周辺
石井 穰（関東学院大学経済学部准教授）
- (2) ルソーとモンテスキュー
山崎耕一（一橋大学社会科学古典資料センター特任教授）
- (3) 文献考証と経済思想 — 「ユダヤ人」の歴史をめぐって
恒木健太郎（専修大学経済学部講師）

書誌学

- (1) 記述書誌を“読む”面白さ — 図書館員のための書誌学入門
武者小路信和（大東文化大学文学部准教授）
- (2) 西洋古典資料の目録作成
床井啓太郎（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）
- (3) 目録作成実習
福島知己（一橋大学社会科学古典資料センター専門助手）

保存・修復

- (1) 紙資料の保存
増田勝彦（昭和女子大学光葉博物館顧問）
- (2) 西洋古典資料の修理について
岡本幸治（製本家・書籍修復家）

資料展示論

- 書物の展示 — 「見せる方法」と「魅せる工夫」
岡崎礼奈（東洋文庫普及展示部 研究員・学芸員）

社会科学古典資料センター見学（書庫・所蔵資料・貴重書保存修復工房）

日誌（2014年1月～12月）

- 3月31日 一橋大学社会科学古典資料センター年報 第34号発行
- 3月31日 Study Series No. 69：木村雄一「N. カルドアと支出税 — J. S. ミルと J. M. ケインズを通じて」発行
- 3月31日 江夏由樹センター長が退任
- 3月31日 山崎耕一センター教授が定年退職（4月1日付け特任教授に就任）
- 4月1日 青木玲子・経済研究所教授がセンター長に着任
- 5月17日 第9回一橋大学ホームカミングデー記念展示
- 6月4日 第15回社会科学古典資料センター専門委員会
議題：1 平成25年度決算報告について
2 平成26年度事業計画について
3 学内講義等への貴重資料貸し出しサービスの試行について
4 平成25年度事業報告について
5 田嶋記念大学図書館振興財団助成金について

6 平成 25 年度科学研究費助成事業について

7 センター見学の学内広報について

7 月 2 日～ 4 日 第 15 回西洋古典資料保存講習会 開催

8 月 1 日 2014 オープンキャンパス特別資料展示

8 月 26 日 ワークショップ「貴重資料の電子化アーカイブとその公開・利用・外部連携：
Digital Humanities の新局面」開催

9 月 15 日 ひらめき☆ときめきサイエンス「本を残す 本を伝える－書籍の保存と修復」開催

11 月 12 日～ 14 日 第 34 回西洋社会科学古典資料講習会開催

11 月 30 日 青木玲子センター長が退任

12 月 1 日 山部敏文・大学院法学研究科教授がセンター長に着任

利用状況（2014 年 1 月～ 12 月）

開館日数 230 日

来館者数 58 人

（学内） 37 人

（学外） 21 人

利用冊数 101 冊

文献複写申込受理件数 27 件

複写冊数 59 冊

見学者数 174 人

本年から見学者数の統計をとることとした。